

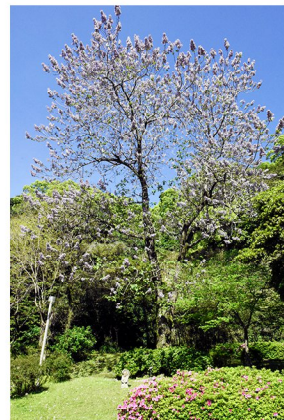


① 樋の間二つ家（てのまふたつえ）

始良郡横川町下ノ赤水（現霧島市横川町）の海老ヶ迫（えびがさこ）家住宅を移築したもの。
建築の時期は、天保年間（1830～1844）と伝えられている。
二つの棟が「樋の間」で連結されている民家は、川内川流域から旧始良郡一帯にみられた。

② 桐

4月下旬頃、芳香ある淡い紫色の花を咲かせる。
材は下駄や家具に、樹皮は染料に、葉は除虫に利用される。



③ 田の神像

田を守り、稲作の豊穡をもたらす神として、鹿児島県と宮崎県南部に多くみられる石像。
鹿児島弁では「田の神様（タノカンサア）」
この像は川薩（せんさつ）地方にみられる神像型田の神の典型的なもの。

開館当時は現在の場所よりも山側に展示されていた。
平成5（1993）年7月7日・8月6日の集中豪雨による城山の崖崩れと大量の土砂流入で、屋外展示場の一部は埋もれたが、この像はキンチクダゲの藪に覆い被され、難を逃れた。
その後、現在の場所に移したことで、同年9月3日の台風13号襲来による倒木被害からもまぬがれた。

④ 石敢當（せっかんとう）

T字路の突き当たりに建てる魔除けの石。
中国から南島を経て伝播した習俗といわれ、南島や南九州に多くみられる。



左が開館当時の石敢當、右が現在の石敢當である。
現在は刻字が風化して判読できなくなっている。

⑤ 楠芳亭（なんぼうてい）

四畳半の茶室と十畳の広間を備えた茶室。
事前予約をすれば一般の方々でも利用可能。
※詳しくは（電話099-222-5100）まで

⑥ 田の神石像（模刻）

始良町平松（現始良市）、吾平町上名中福良（現鹿屋市）、
加治木町日木山里（現始良市）、郡山町茄子田（現鹿児島市）
の田の神を模刻したもの。

⑦ 御池（おいけ）

鹿児島（鶴丸）城本丸にあった池を復元したもの。
石橋などの石材は、もと鹿児島城本丸の東南隅にあったものが、第七高等学校造士館時代に同校のプール建設のため、鹿児島市鴨池動物園の庭園に移設され、その後、動物園の移転に伴い、鹿児島市から無償譲渡されたものである。



黎明館 敷地散策ガイド（西側編）

黎明館

黎明館は、初代藩主島津家久が築いた鹿児島（鶴丸）城本丸跡に建っている。
昭和43（1968）年、明治百年を記念した事業として建設準備がはじまり、昭和58（1983）年10月「鹿児島県歴史資料センター黎明館」として開館。愛称の「黎明館」は一般公募により決定した名前である。
令和2（2020）年4月「鹿児島県歴史・美術センター黎明館」に名称変更した。
黎明館の基本設計は、文化勲章受章者谷口吉郎氏の設計によるもので、建築の軸線および外観の意匠、色彩等は隣接する県立図書館と統一されている。

